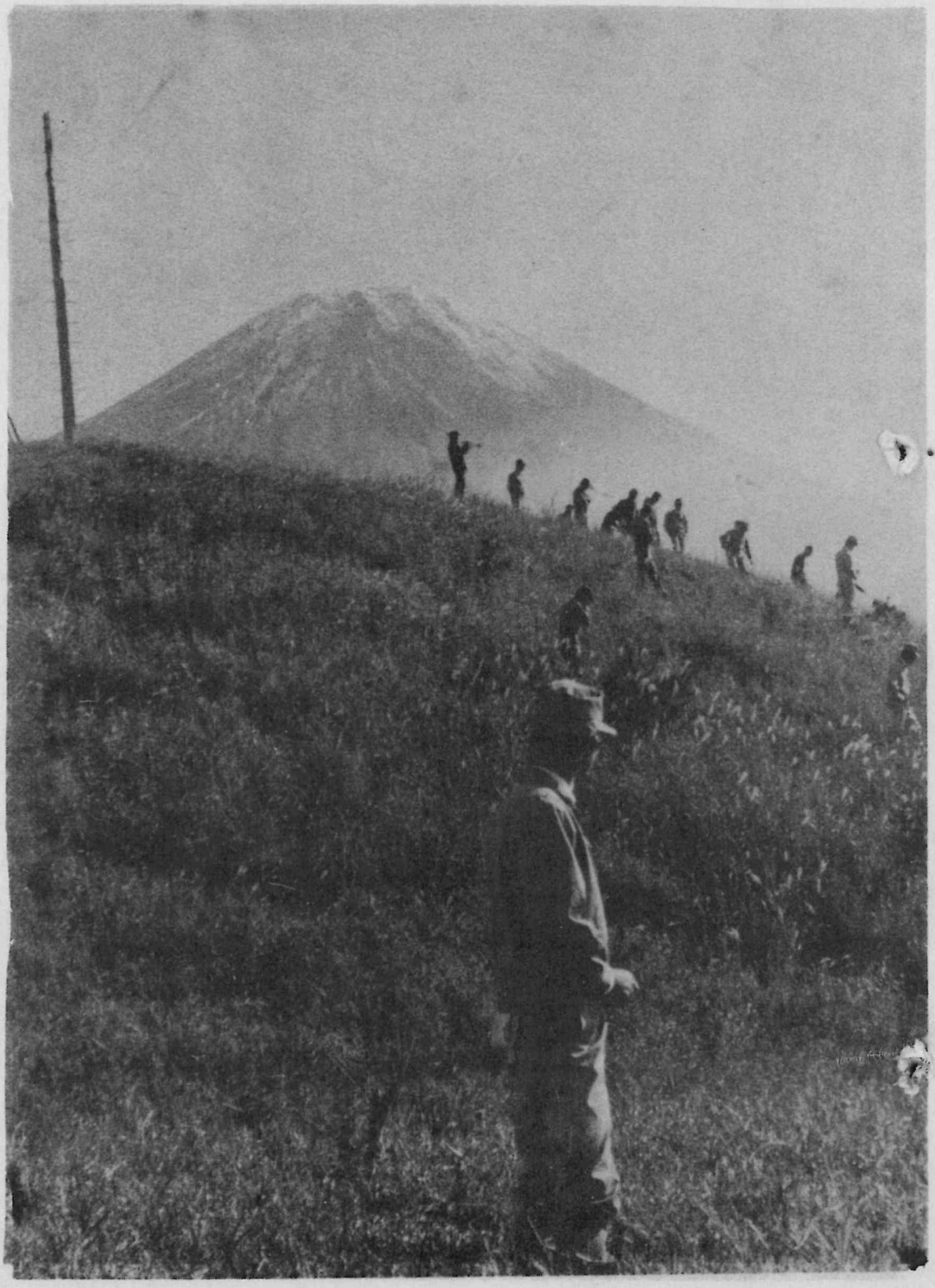
ふじ



第三号

建設省建設大学校中央訓練所

開発青年隊に思う

富士宮第三中学校校長
植松貞治

最近、毛沢東語録日本版を読みました。松村謙三さんのすいせんのことばに、

「共の指導者たちは、日本の明治維新の志士たちと共通したところがえられる。毛沢東は、西郷隆盛に比肩しえよう。私は毛沢東のすべてがいいとは思わないが、その中に流れる愛国の熱情は火の如く燃え、中国の民族主義、愛国主義、平和主義の象徴として七億の民衆を動かしていることは、日本の現状を見るとき、大いに学ぶべきところであろうと思います。

私も若い頃中国に生活し中国人とのつきあいもあつたので新しい中国については関心をもつております。あの頃の中国の民衆は、安居楽業自分のことしか考えない明日への希望のない人たちでした。

今日の日本のレジャーブームは中国から輸入され、愛国心も民族意識も薄らいでしまつた感がいたします。全くあべこべになりました。世界の注目をあつめている紅衛兵たちが、毛沢東語録を高くさしあげて毛主席の肖像を先頭に胸を張つて勇ましくのしまくつている情景が想像されます。一億一心、勝つまでは　の当時の日本の姿と七億一心をめざす中国のすさまじい歴史の躍動が・・・・・。私には喜ぶべきか、悲しむべきかはわかりませんが、青年が国家理想をもつて立ちあがることは、偉大なることであると思います。

青年よ、世界は君たちのものであり、また、私達のものでもあるが、やはり結局のところは君たちのものである。君たち青年は、生気はつらつとして、ちょうど朝の八時か九時頃の太陽のようにのぼり盛りである。希望は君たちの上に託されていると毛沢東は青年を国家の宝としています。

さて、日本の現状はどうであるか、青少年非行化を歎いてはいるが、青年に希望を与えず、極めて消極的であります。今日の青年の生態には明暗の二相が見られる。私は、その明るい面に楽観するものではない。又反面の暗い層だけに心をとられて憂国の慷慨をするものでもない。これは敗戦後の日本が自由と責任、権利と義務の限界がわからず、真の民主主義の意義を知らず、いわゆる無責任時代の所産でありますから、こ

こで反省すべきであると思います。

事実若い層には自己反省が欠けているし、戦争体験者の大人たちにも真面目な反省が欠けております。自己反省とは人生をよりよく生きようとする真面目な願いと思いかえてもよい。君が代も日の丸も戦争とか、帝国主義に結びつけて考えたり、規律ある行動や鍛練とか根性というと軍国主義につながると思つたりすることが不思議でなりません。もつぱら自分だけのことを考え、国家や民族の運命を真剣に考える青年は少ないと思います。

今回建設大学中央訓練所の開発青年隊の皆さんが、台風の大惨害を被つた宮古島の復旧工事に奉仕され、驚嘆すべき活動をなさつたことは、祖国復帰を待つ島民にどんなに感激を与えたことか、民族意識の高揚、愛国心の熱情が言葉でなく、皆さんの意気と力によつて如実に表明されたのであります。私は皆さんの活躍の状況や、島民の感激の様子を長沢所長さんからの手紙で知り、学校だけでは、もつたいないと思いおことわりもせず恐縮に思いましたがローカル新聞に掲載していただき市民に広く喜んでいただいたのであります。無事大任をはたされて帰国後皆様一同所長先生とわざわざ私の学校までお出で下さつたのに、あいにく出張不在で申し訳ありませんでした。玄関に出た一教師は皆さんの立派な態度に敬服し、その節度を守り規律ある行動にひどく感激いたしまして、翌朝私はその報告を受け感銘を深くした次第であります。

私は新生日本の青年の真の姿を開発青年隊に見ると言いたい。まことの教育の道を訓練所の教育に学べといいたい。皆さんが全国にその所を得て団結し、広く海外にまで発して日本の青年の覚醒剤となつて、よい意味での昭和維新を築いていただきたいと願うものであります。先般私の学校の加納教諭が四十日間の欧米教育視察から帰りまして、国家意識、愛国心など日本の現状はこれでよいのか、本当に考えさせられると言つていました。そしてアメリカ経由でハワイによつたのですが数十年前に祖国を離れアメリカの国籍にあるハワイの日本人の中に愛国心を見てきました。と感想をのべておりました。

所長先生の訓練方針が開発は先ず心の開発から！精神教育に重点をおいて、物心一如の真理を求めて御精進あらんことを祈ります。

「宮古島災害復旧活動に対する地元小中高校生よりの声」

産業開発青年隊に対する感想

宮古連合区教育委員長
上野区教育委員長
垣花義次

才二宮古島台風災害復旧救援隊として、本土政府から派遣された産業開発青年隊は十月十六日に来島し、その中の上野地区救援隊は十月十七日午前八時、上野小学校に到着した。

青年隊は直ちに児童の（約九〇〇名）の朝礼式に臨み、島尻校長から紹介された。初めて見るその制服と、秩序整然とした隊員の行動は、全児童の脳裡に「祖国の兄達の姿はかくの如きもの」として、強く印象づけられた事と思う。

列席した私は「軍隊式に訓練された隊員」を感じたが、私は軍隊式規律に好感を持つており、かくてこそ日本青年の指導者たるべき人々であると頼もしく感じていたのであつた。

然し数十分をいでずして、私の脳裡にあつた「軍隊式」を自らあつさり払拭しなければならなかつた。即ち、過去に見た軍隊は、指揮者と被指揮者が明確に区別されていた。しかし、今日のあたりにみる作業中の青年隊の行動には、指揮する者も指揮を受ける者もいない、つまり十人の行動は一人の行動と全く同一といつてよかつた。この態度は初日から最終日の二十九日まで一貫して変らなかつた。誠に頼もしい日本青年群像であつた。

青年隊の作業は暴風に依つて将棋倒しにされて道路をふさいでいる一個二十貫もある、通称ブロック石を一応取片付け、土台を固めてから積上げる学校周囲の塀の修復工事で、随分疲れる力仕事であるが、隊員の口から一度たりとも、「あゝ　疲れた」と言う言葉を聞いたことがなかつた。これは精神的、肉体的訓練の結果であろうと、非常に感銘にたえない。

片付け作業が一段落して、積重ね作業に取りかかつた。糸が張られ丁張りが立てられ、三脚の器機が持ち出された。私には隊員全部が土木技師に見え出した。

ブロック石は次々積み上げられていく、砂、セメント、水運搬、すべて技師達がやつてしまうので技師の技術が勿体なく思われた。六年生に砂運びを協力せしめるのを喜んでもらつたが、決して骨休みしたのではなく児童と接するのが楽しいようである。又小中学校長は作業の進捗を考慮してPTA役員に協力せしめたが、作業中に或いは休憩時間に住民達と接触して種々の話題を求めている態度が感じられ、同胞愛の発露であると私は感じた。

隊員は児童生徒と親善を深める努力をしていた。登校、下校の児童に「お早う」「さようなら」を呼びかけ、中には返事もできず、キョトンとしている子供も少なくなかつたが、次才に打ちとけて胸にかけた名札を呼ぶようになつた。小林さん、樋口さんと呼んで走り去る子供が目についた。

やがて子供達から封書が届けられた。その文面や、数等はいまだ知る機会はないが、その内容は救援作業に対する感謝と、日本の子供であることを自覚している事、日本復帰したい事等であろう、と想像している。

多分二十七日のことと覚えているが、昼食中の私の耳に大勢の「ワッショイ　ワッショイ」のかけ声が響いて来た。ふりかえつた私の眼に写つたのは、一人の隊員を押立てての数百人の児童のワッショイ行進であつた。祖国日本の兄さんを押立ててのワッショイ行進・・・彼等には一種独特の感激があるであろうことを思い、感極まつて目頭をおさえた。ワッショイ行進は次才に高潮し、参加児童は益々増えて行つた。私には「子供達の祖国日本への行進に見えた。遙か彼方におかれている祖国であるが隊員と子供達の胸中には祖国のふところに帰る日まで、熱い血潮が通い続けられることだろう。

産業開発青年隊とは如何なるものか。私はそれが知りたかつた。小学校の教頭宮国先生も同感で某日小倉隊員に綱領等の印刷物があつたら分譲してほしいと所望した。二、三日目に毎月発行されている開発青年が届けられた。開発青年を読んで旬日に亘つて眺めていた産業開発青年隊を表現する的確な文字を発見した。それは若き日本の魂であつた。

「若き日本の魂」と何べんも唱えてみた。

マスコミによれば青年の中には事ある毎に反政府運動を行ない、祖国を愛するよりも、赤い国を謳歌する者が多い事を憂えていたものだが、この青年隊出身者が、七千有余も居り此のような若人達が、祖国青年の

中核として活動する限り、日本は安泰であることを確信するとともに、入隊人員の増加が国策として取りあげられて然るべきだと思う。又長沢中央訓練所長は産業開発青年隊の創始者であろうと考え、先生は国士であると一層尊敬の念を深くしている。先生の御滞在中講演会が多く催され、特に青年を対象とした講演会の開催を推進しておられた。

十月二十九日上野地区救援隊による、上野小、中学校復旧工事の予定日程は終つた。小学校のブロック塀は完全復旧した。中学校の塀も一部分を残すのみとなつた。日に焼けた顔や腕が黒く光つていた。

終業時間にゆつくりこれを眺めて感謝の気持ちと申しわけない気持が交錯した。然し隊員は全然気にしていないようである。

心身共に鍛え上げられた人間像に頭が下る思いであつた。

日本の柱、産業開発青年隊の皆さん、「若き日本の魂よ」上野区教育委員長として、数日の御苦労に対し深く感謝を申し上げると共に、皆さんの力によつて祖国日本が磐石の安きにおかれる事を祈念する次第であります。

私達に与えたもの

宮古島城辺町助役　森田武雄

台風によつて受けた被害はあまりにも大きかつた。それは物ばかりでなく、農を業として生きる人々の心までである。

しかし得るものも大きかつた。中でももつとも大きいものは、人の心の温かさを知らされたことであろう。毎日のように送つてくる救援物資、少ない財布の中から出されるかも知れない見舞金、どんなに我々を元気づけたか知れない。しかしこれらの金品は贈つていただいた人々の顔や言葉にふれることはできない。ただその真心に感謝するだけである。

それに比べ青年隊の来島は、じかにその真心を知らされた。それは成しとげた仕事の量ではない。あの元気な姿が、行きずりにかわされる短かい言葉が、我々に人の真心を教え立ち上る勇気を与えてくれたのである。

我々は戦争であれだけの犠牲を払つた上に祖国から分断された。日本全国からすれば、小指の痛さかも知れな

いが、我々は実に痛いのである。時に祖国をのろうことさえあつた。しかしこのたびの青年隊来島は、祖国を身近かに感じさせ同胞の血のかよいを改めて知らしめた。

袖ふりあうも他生の縁ならば、城辺の野山でのあの語らいが、他我をなくしたあの団らんが、何で忘れることができましようか。

時にふれ、折にふれ偲び合い、契りをかたくして行きたいものである。

慣れない土地での慣れない作業、ほんとに、御苦労さまでした。このたびの体験が国土建設と沖縄を抱き寄せるために大きな力となりますことを祈るとともに、隊員皆さんの御健闘をお祈りいたしましておわりにします。

「宮古島派遣隊員」特集

同胞（はらから）

幹部二年　小倉　侑

太平洋の荒波こえて
強い団結使命おび
我らの同胞救うがため
勇気と愛をささげけり
我ら産業開発青年隊

陽出ずる島、南海の
夜明けの略地へひびく声
不屈の信念胸に秘め
明日の担手若人は
我ら産業開発青年隊

青い海　サンゴの島
さとうきびながめ強い陽をうけ
手にツルハシひたいに汗を
土に埋れる我らの愛
永遠の平和を願う
我ら産業開発青年隊

青い海、青い空、どうしてこんなに美しいのだろう。救援作業始まる。小学校の塀ブロック積み、小学生とも友達になり楽しく仕事が出来る。先生と子供達の寄せ書きの中に〃みなさまの愛の手は、いつまでも、いつまでも、ダイヤモンドのように子供達の心に光つていることでしよう〃　〃こつこつと作業に励む同胞（はらから）の後すがたに心つよまる〃と。本当に宮古島に来て良かつたと感じた一文だ。

仮設住宅建設にあたつていた頃、島の人達とよく話をした。未曾有の台風コラは、三十数時間南風をたたきつけ、一時は離島の全機能をマヒした。食糧がなく、すき腹で困つたとか、しかし人命を損じることなく避難出来たのは不幸中の幸いだとも語つていた。

家をなくし仮小屋にて、一家五人もが生活しているもの、又馬小屋を一部仕切つて住んでいる人、本当にきのどくでならない。雨が降ると部屋中水びたしになり、子供は泣き出しもう見ているだけでも同情せざるを得ない。

五坪の仮設住宅ではあるが、家のない人達の喜びは、大へんなものであつた。

かつて沖縄県であつた時のことを話し、本土復帰を最高に願つていた。〃宮古〃　問題の多い島だ。サンゴ礁で出来た島にはサトウキビのみ、他にとりえがない。そのためか貧富の差が激しく、今度の台風で宮古を去つた人々も少なくない。

我々は沖縄、宮古島の実態をよく知り本土復帰に多いに参加したいものだ。

本土復帰

幹部二年　黒田純夫

愛と勇気を島民に与えるべく青年隊は、十月十六日宮古島にのりこんだ。

最初島民とは何かしら話しづらかつたが、作業を通

じ時間がたつにつれ島民とも親しくなり、沖縄、宮古の現状、今後の問題など語つたうちで一番胸中に飛び込んできたのは、「本土復帰」という言葉であつた。本土復帰、私は難しい問題点が多いと思う。宮古、沖縄、他の島々もそうだと思うが、貧富の差がはなはだしいようにみうけられ、貧困な家庭ほど本土復帰の言葉が強いように思われた。

なぜなら、復帰した場合、現在の生活よりも楽になるだろうと考えているからだ。

何日前かの新聞（沖縄での沖縄の新聞）に沖縄復帰という題で教育権返還と共に書いてあつた内容は、一九六六年に於ける琉球列島の総生産は、四億三千五百五十万ドル。一人当り所得は、四百二十八ドル、この半額余りが基地収入である。基地が撤去されれば島ぐるみ破産することになりかねない。と訴えていた。

日本政府は口先だけで返還と叫んでいてもらちがあかぬと思う。琉球列島同胞のためにもつと深くつき込んだ案を作り、一日も早く日本復帰をさせ我々同胞と苦楽をともにし、立派な日本を育て上げねばならぬ時期が来ているように思える。

ある日、島民の一人が、我々は国籍不明なのだ。書類に書く時、沖縄とも日本とも書くことができない。」と声を大にして怒りをぶちまいていた。私には、どうしようもない寂しさがおそつてくるのが感じられた。同じ民族、同胞がこんな姿でいるのをほつておいていいものであろうか。胸がつまる思いで聞いた。

施政権全面返還がむずかしいとすれば基地以外の地域、とくに離島を返してもらい機能的に教育権などを返してもらうよう、アメリカ政府とかけあつてもよいと考える。

本土政府よ！　同胞のために立ち上がつてもらいたい。

青年隊員は、初期目的達成のため島民の中に入り島民になり、短かい一ケ月だつたが苦楽をともにしたことは今後の日本と沖縄の関係を密にしたものと考える。

沖縄列島に、どうどうと日の丸の上る日を楽しみに近い将来きつと実現すると確信して筆をおく。